

事業所名

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

19日

法人（事業所）理念		利用者一人ひとりの「自立」に向けて、実状を客観的に把握し、スモールステップを踏みながら、個別化されたきめこまやかな療育を行います。また、児童福祉法にもあるように、家庭や学校、地域との連携を重要と考え、一貫性をもった療育をめざします。更に、信頼関係を築くことを大切に考え、その関係性を礎にして利用者が少々困難なことや初めてのことにも少しずつ挑戦して苦手意識を払拭し、自信と誇りをもって生きていくことができるよう願っています。		
支援方針		○基本的生活習慣を獲得する。 ○集中する力・持続する力を身につける。 ○一人ひとりに応じたコミュニケーションの力を身につける。 ○対人関係・社会性・柔軟性を高める。		
営業時間		平日：10時～17時30分 学校休業日：10時～16時	送迎実施の有無	（あり） なし ※利用者の実状に合わせて実施しない場合がある。
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	基本的生活習慣の獲得（着脱・排泄・食事・手洗い・持ち物管理等）、情緒の安定、ものごとに対する苦手意識を払拭しものごとに前向きにとりくむ姿勢をつくる、ものごとに一生懸命にとりくみ褒められ認められることで自信につなげる		
	運動・感覚	微細運動、粗大運動、体幹トレーニング、ダンス、音楽療法、プール、聴覚刺激に対する耐性力の獲得、「着目」「注視」「注目」「追視」の力を身につける、目と手の協応、接触に対する適応力を高める、		
	認知・行動	自己コントロール力の獲得、集中力・持続力の獲得、概念を獲得する（数概念、同異概念、比較概念等）、認知力を高める、		
	言語 コミュニケーション	「欲求」「意思」「心情」等の表出、「欲求」「意思」「心情」等の言語表出、「報連相」の獲得		
	人間関係 社会性	信頼関係の構築、集団活動への参加（個別的なとりくみ後）、状況判断や場面予測・相手の心情を考える力を身につける、自分の力でできることを増やし、自信につなげる、社会性の獲得、こだわりを改善し柔軟性を身につける、公共交通機関の使い方を身につける		
家族支援		保護者の方と家庭の様子を共有し、利用者本人だけでなく必要に応じてご家族（両親や兄弟等）に寄り添いながら支援を行う。	移行支援	将来に向けて、利用者一人ひとりの実状に合わせて、課題を設定し個別的なとりくみを行う。その際に、保護者や学校ともできるだけ連携をとりながら行う。また、卒会する際には就労先の事業所への引継ぎ等を行い、就労後も必要に応じて連携をとる。

<p>地域支援・地域連携</p>	<p>○地域のイベントに積極的に参加する（福祉まつり等）。 ○地域のボランティアの方にご協力いただきながら活動する（月1回の紙芝居や本の読み語りやコンサート） ○活動を通して地域にある商店に買い物に行ったり、ウォークラリーで地域の方々との交流の機会をつくる。 ※その他、利用者と一緒に日々近隣の方々への挨拶や交流を大切にする。</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>○月1回の合同カンファレンス ○内部研修（療育について、障がい者虐待・権利擁護について、年2回外部の講師を招いた研修、BCP等） ○外部研修（都主催の研修、調布市福祉人材センターの研修、その他療育や医療の研修等）</p>
<p>主な行事等（第1・3土曜日療育活動等）</p>	<p>ハイキング、味覚狩り、プラネタリウム、陶芸、地震体験（立川防災館）、卒会生との交流、卒会生を囲む会、運動（体育館を借りて）、合同作品作り（アート展に出展）、国立科学博物館、年賀状作り、クリスマス会、調布福祉まつり、もちつき、年賀状作り、コンサート、防災訓練・引き取り訓練、梅見、ウォークラリー、卒会生を送る会、宿泊訓練（夏休み期間に同法人の「ふみ月の家」事業）等 外出の際はできるだけ公共交通機関を使い、利用者がマナー等を学びながら社会性を身につけられるようとりくみを行う。</p>		